

ENGAWA



《特集》

地域の誰かが主役！

多様な人材でつくる、これからの社会

■表紙の言葉

4月24日、クリエート浜松にて、ルーマニア人講師による『英語deルーマニア料理体験』が開催されました。当日は、多くの参加者で大盛況！英語、ルーマニア語、日本語、そして多くの笑顔で満ちた活気溢れるイベントとなりました。

市民活動団体フレクティブと、公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)の共催によって開催されている『多言語de世界のクッキング体験』。今後もトリニダードバゴ、フランスなど、世界各国の料理体験が予定されています。料理を通して、さまざまな世界に触れてみませんか？

■目次

《特集》

地域の誰かが主役！

多様な人材でつくる、これからの社会

- ・ FRECTIVE(フレクティブ)
- ・ 特定非営利活動法人 遠江

ページ2～5

《トピックス》

- ・ 新センター長就任のご挨拶
- ・ 新スタッフ紹介
- ・ センターお役立ち情報
- ・ NPOニュース

ページ6～7

《CHECK！》

- ・ パートナーシップ・ミーティング開催のお知らせ

ページ8



地域の誰もが主役！ 多様な人材でつくる、これからの社会

浜松市には、他団体と積極的に連携を図ったり、ボランティアを巻き込んだり、地域と関わりを持つ市民活動団体が多く活躍しています。今回は、積極的に「つながり」をつくり活動している2団体をご紹介します！協働のヒントを探ります。



FRECTIVE（フレクティブ）

代表 山本 洋士さん
玉置麻菜美さん

国際力があり、
誰もが住みたいという街を目指して

—— 活動内容について教えてください。

フレクティブは、「浜松市に国際力があり、誰もが住みたいという街になる」というビジョンを持って、平成25年より活動しています。多様な文化を持つ人たちと知り合い、交流することの驚きや楽しみを体験する機会を提供するため、外国人講師による料理教室「フレッシュクッキング」や、マダガスカルの鬼ごっこ「クバーラ」の体験、世界のゲームを外国語で体験する「フレッシュゲーム」という3つの事業を行っています。

例えばフレッシュクッキングでは、外国人講師が外国語で外国の料理を教えるという、一見無茶に見える内容をやっています。実は参加者には、途中で困ったり、仲間と相談したり、文句が出たりという体験をしてもらいたいです。なぜなら、“困った”という感情や苦労した体験が、外国の人たちが日本に来た時に一番最初に感じることで伝えられるからです。このようなことを、体験から学んでいただきたいと考えています。

—— 連携の内容や効果を教えてください。

フレッシュクッキングは、3年前に公益財団法人浜松国際交流協会(以下、『HICE』)に企画を持ち込み、共催で年8～9回程度開催しています。基本的には、フレクティブで企画・運営を担当し、HICEと一緒にチラシの作成をします。HICEは、会場の予約や情報を冊子に掲載して、HICE会員や各協働センターに郵送するなど、広

報宣伝を担当してくれています。

最初は集客もとても大変でした。ですが、共催のHICEも協力的に根気強く広報をしていただき、3年経った今では予約開始早々にキャンセル待ちになる回も出てきています。HICEから講師の紹介をしてもらうこともあり、これまでにカナダや韓国、インドネシア、ルーマニア、トンガなど、20ヵ国以上の講師を招いて料理教室を開催してきました。

フレクティブにとっては、共催によってより多くの人に情報を届けられるという点で助かっています。また、HICE会員になると参加費が500円引きになるということで、料理教室を通してHICE会員になる参加者も多い。それぞれにとってメリットになっているのかなと思います。



『英語deルーマニア料理体験』には40名を超える参加者が集まった。高校生ボランティアも参加するなど、多様な人々の交流の場となった。



英語とルーマニア語を交えた講師の話真剣に聞く参加者の皆さん。

—— 連携の際、意識していることは何ですか

協力してもらって当たり前ではなく、相手がされたいことをしていくという思いで活動しています。また、そもそも自分たちの団体は何のために存在しているのか、なぜHICEと連携しているのかを常に意識しています。

僕たちの活動は、英語だけでやれば収益事業としてやっていけます。しかしそれだと「英語を学びたい」という思いで来る人が多い。そうではなくて、文化に興味を持ち、歩み寄ってもらいたい。提供したいのは、英語の勉強の場ではなく、コミュニケーションの場なんです。

だからフレクティブのイベントは、日本語が全く話せなくても参加できます。求めているのは、彼ら、彼女らが日本に適應することではなく、母国の文化を日本に発信して、お互いに歩み寄れるということを経験として知ってもらおうことです。

“文化と文化の交差点”は成長のポイントだと思っています。そういうポイントをたくさん持っている人たちは絶対優れていく。だから、いろいろな経験を、外国人の方にも、地域の人にも、自分の子どもたちにもしてってもらいたいです。

—— 今後の展望を教えてください

今後は、1つの団体として結果を出していきたいと考えています。そうしていくには、確たる覚悟が必要だし、僕らの基盤も必要です。フレクティブが枠を超えて行くためにも、NPO法人化の準備を進めています。

いずれは人を1人でも雇用できるくらいになって、NPOとして次の代にもつないでいきたいです。そうして、自分だけの器を超えて、みんなのフレクティブになっていったら良いと思います。社会にとって良いアクセントが提供できる団体になりたいし、求められるようになっていきたいです。

日本の人口が減っている中で、外国人に日本に来ていただくということも一つの解決策ですが、やはり差別の問題も出てきます。日本に希望を持ってやって来ても、その希望を打ち碎かれたとき、母国に帰ってしまう。だから、外国の人たちが当たり前を受け入れられる環境になったら良いと思います。そして最終的には、自分たちが必要無いほど多文化共生が進んだ社会になると良いですね。



フレクティブ
FRECTIVE (NPO法人設立認証中)

多様な文化に触れ、自分とは異なる文化を持つ人と交流することの楽しさ、喜び、驚きを感じてもらい、浜松市に国際力があり、誰もが住みたいという街に。そんな思いから活動をしています。最新情報はフェイスブックをご覧ください！ <https://www.facebook.com/frective/>



地域の誰もが主役！ 多様な人材でつくる、これからの社会



特定非営利活動法人 とおとうみ 遠江

理事 永見かおるさん

事務長 小高 雄 さん

すべての人にとって
住みやすい社会の形成に寄与したい

—— 活動内容について教えてください

平成27年1月に法人を設立し、高齢者や子ども、子育てをしている家族の方の支援など、社会福祉分野を中心に活動しています。

高齢者関係としては、軽度認知症やその疑いのある方を対象とした重度化予防の活動を、浜松市のモデル事業として取り組んでいます。また、認知症の方やその家族を支える応援者を増やすことを目的に、『認知症サポーター養成講座』も開催しています。

子ども関係では、『福祉職場体験講座(静岡県青少年育成会議)』や、『市民活動体験講座(浜松市市民協働・地域政策課)』の受入団体の一つとして、中高生の受入れをしてきました。

広く地域貢献するための取り組みの一環として、さまざまな団体との協働事業も実施しています。例えば、昨年自転車に関する道路交通法が変わったことに合わせ、自転車の交通安全講座を静岡県西遠自転車商業協同組合と協働で開催しました。また、市内のNPO法人から依頼を受け、託児サービスを提供したり、ボランティアメンバーを集めてイベントに協力するなど、市内外のNPO法人や行政などと協働して、さまざまな事業を実施しています。

—— 連携の際、意識していることは何ですか

連携の話が出た時には、まず組織内できちんと話し

合い、法人としての方針を明確にしてから回答をし、その後迅速に動くようにしています。

また、実現のためにはどのようにすれば良いか、常にプラス思考で考えるようにしています。最善の結果を実現できるよう、さまざまな方法を探り、相手に提案したり、相手の意見を聞くようにしています。また、活動実施までの期日や、いつまでに何をするかを決め、問合せ等にも可能な限り迅速に回答するよう努めています。

活動を行う際は、10代から80代まで幅広い年代の方が当法人のボランティア活動メンバーとして参加してくださっていますが、ボランティアの方や協働相手の受入団体にとっても、相互にメリットが無ければやはり事業は成立しません。そのため、相互にメリットがあるもの、更には第三者にメリットが波及するものになるよう心掛けて話しを進めるようにしています。そうすることで皆がwin-winの関係になり、結果として連携も円滑になり、今後継続させていくことにも繋がっていくと思います。



軽度認知症予防及び重度化予防の活動の様子。有酸素運動や栄養摂取を基本とし、体操、買物、調理、音楽、観光地訪問等のプログラムを組み合わせで行った。今年度も6月から平成29年1月まで活動予定。



福祉施設利用者の方とのレクリエーション体験や、福祉施設でのイベントボランティア、託児ボランティアなど、幅広い年代の方がそれぞれの得意分野を活かして活動に参加している。

——ボランティアを巻き込む秘訣は

ボランティア登録者数は平成28年5月現在80名程です。毎月登録者数が増えています。一人ひとりとのコミュニケーションを絶やさないよう意識しています。信頼があってこそNPOですので、「活動をきちんと実施している」ということが伝わらないと、ボランティアの皆さんに関わっていただくことはやはり難しいと思います。

ボランティア活動をされるメンバーには、活動時に直近の活動を含めた事業について幅広く伝えたり、連絡等を素早く行うことを心懸けています。連絡手段に関しても、ホームページやメール、FAX、電話など、相手の年齢や希望などに合わせて変えています。

ボランティア活動の依頼があった時は、ボランティアの方が希望する活動内容と依頼内容が合致しているか等、コーディネートもしています。当法人に無料のボランティア活動登録をしていただく際、子どもや高齢者関係などの希望の活動分野を書いていただき、それぞれの希望に合わせてボランティア活動のご案内をしています。そのように一対一のコミュニケーションをしっかりとることが、信頼関係につながっていくと思います。

——今後の展望を教えてください

地域に根付き、浜松市に貢献していくということを主体に置いて活動が続けていきたいと考えています。

ボランティア活動をして下さっている方一人一人が、当法人のボランティア活動を通してやりがいや、何か得られるものがあるから活動にご協力いただけていると思っています。そういったものをより多く提供していけるよう、できることに最大限取り組んでいきたいです。

また、静岡県西部地域のNPO法人間で連携・協働していこうという動きが進んでおり、私たちもその賛同団体の一つとして加入いたしました。一つの法人では解決できない社会課題も、NPO同士が協働することで解決できることがあると思います。さまざまなNPOと協働し、地域が抱える問題を一つでも解決していければと思っています。

微力ではありますが、当法人単体で取り組んだり解決できる問題に関しては、引き続き活動が続けていきます。そういった個の法人として活動していく部分と、県西部の大きな団体として活動していく部分の両方を意識しながら、今後も地域に貢献していきたいです。



特定非営利活動法人 遠江

この法人は、介護を必要とする高齢者、育児を必要とする子どもたちやその家族に対して、介護保険法及び児童福祉法に基づく各種事業やスポーツを通じて心身の健康を図る事業などを行い、介護や育児、健康に関する不安を除去し、すべての人にとって住みやすい社会の形成に寄与することを目的としています。最新情報はホームページをご覧ください！ <http://npototomi.org/>

新センター長就任のご挨拶

人のために何ができるのか

これからの市民協働のあり方は

「おはようございます」朝のセンターは爽やかな笑顔の挨拶から始まります。4月から長田治義さんの後任として赴任しました須山嘉七郎と申します。

3月までの3年間を校長として浜松市立東部中学校に勤務していました。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、東部中はこれからの時代にマッチして制服をブレザー化したり、義務教育では珍しい東北支援ツアーを企画実施したり、全国初社会貢献部を部活動として立ち上げたり…教育界に様々な新しい提案をしてきた学校です。

特に3年間連続で実施した東北支援ツアーは、この浜松市市民協働センター(以下センター)がリードしました。子どもたちは民泊や地元住民と交流した貴重な体験を市民の前で発表する機会を得

センター長
須山 嘉七郎



ました。こうした体験を通して、子どもたちは「震災に対する防災」から「減災」に、さらに「まちづくり」へと意識を高め、大きく成長していきました。

人口知能やロボットの開発が進み、今後の人口減少が益々加速する社会にあって、市民一人、ひとりが「人間にしかできないこと」や「人のために何ができるのか」が問われる時代となります。

このセンターは、市内各地域にある協働センターとは異なり、浜松市を中心に活動するNPO法人を育て、企業の社会貢献活動(CSR)や行政施策と連動して、住み良い「まちづくり」を推進する市民運動につなげる使命を負った組織です。

長田前センター長のようにいかないこともあるかと思いますが、自分なりに一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

新しいスタッフの紹介

新しく加わった2人のメンバー。
その素顔に迫ってみました！



いしはら しょうま
石原 尚真

- ① 元気、辛抱強い
- ② バスケットボール、ボランティア
- ③ 努力しているものが全て報われるとはかぎらん、しかし、成功したものはすべからく努力している
- ④ 自分に無いもの、足りないものをたくさん吸収して、浜松の皆さんに何か返していきます。

- ① 得意分野・長所
- ② 趣味、好きなこと
- ③ 好きな言葉
- ④ 抱負



やました るな
山下 瑠己

- ① 元気です! 風邪はめったにひきません。
- ② テニス、自然、動くこと
- ③ 明日は明日の風がふく
- ④ 浜松市の市民活動がさらに盛り上がるよう、多くの市民の皆さんとコミュニケーションを取りながら、積極的に行動していきます。これからよろしくお願いします。

Topics

センターお役立ち情報 ～印刷機編～

市民協働センターに“印刷スペース”があるのをご存じですか？カラー、白黒、両面印刷も可能です。カラー印刷機にはソート機能（ページ順に仕分けして印刷する機能）も付いてます。

この情報誌「ENGAWA」や当センター主催の講座のチラシもカラー印刷機で印刷しています。市民活動団体による活動誌やイベントチラシなどを作成などにご活用ください！

カラー印刷機

カラーチラシや情報誌におすすめです。

※持込用紙、色上質紙はご利用いただけません。

●カラー印刷機料金表

用紙サイズ	印刷仕様	紙質			両面の裏面
		再生紙	専用紙		
			普通紙	マット紙	
A3	白黒	7円	9円	21円	6円
	カラー	13円	16円	26円	11円
A4	白黒	4円	6円	11円	3円
	カラー	7円	11円	16円	6円



白黒印刷機

・大量の印刷が高速でできます。

・原稿1枚あたりの印刷部数が多い場合は、こちらの印刷機をおすすめします。

※持込用紙、色上質紙もご利用いただけます。

●白黒印刷機料金表

用紙サイズ	印刷使用	マスター（原紙）	再生紙	色上質	持ち込み用紙/両面の裏面
A3	白黒	100円	3円	4円	1円
A4	白黒	100円	2円	3円	1円



USB メモリでデータを持ち込んでいただければよりキレイな印刷が可能です！

紙の種類・大きさは他にもご用意しています。

詳しくは、市民協働センターホームページをご覧ください！

NPOニュース みんなのはままつ創造プロジェクト始動！

都市の将来像に「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」の実現を掲げる浜松市は、地域固有の文化や資源を活かした市民主体の取り組みを応援することを目的に、活動のスタートアップ資金を補助する「みんなのはままつ創造プロジェクト」を実施しています。平成28年度は35事業が採択されました。

この一年、多様な団体による取り組みが、市内各地で行われます！この機会に、ぜひ参加してみたいかがででしょうか。採択事業一覧は、浜松市ホームページをご覧ください。

[みんなのはままつ創造プロジェクト](#)

[検索](#)

CHECK!

協働相手を見つける熱い1日!

パートナーシップ・ミーティング2016

日時

2016年 7月2日(土)
10:00～17:00

入場無料

予約不要

会場

浜松市市民協働センター

お気軽に
お越しください!

イベント概要

トークセッション

10:00～12:00



協働事業を
実践している
団体が登壇し、
事例や協働に
対する思いを
語ります。

『コラボの種は、こんなところに。』
～企業・市民団体と語る、協働の秘訣～

プレゼンテーション

14:15～16:15

フォーラム



協働によって
事業の発展など
を目指す団体
が、協働アイディ
アを発表します。

ポスターセッション

10:00～16:45

市内外で
活躍する団体の
展示ブース。
さまざまな団体
と交流を図る
チャンス!



企業協賛ブース

10:00～16:45

- ・BOOK募金
- ・無料カラー印刷
- ・無料会計相談
- ・無料NPO相談



【協力】
・(株)プレジャーワークス
・新栄事務機(株)
・税理士法人カイト

最新情報は、市民協働センターホームページをご覧ください!

主催 浜松市市民協働センター / 共催 ふじのくに西部NPO活動センター(静岡県)